
CAR LOVE LETTER 『The Days of Thunder』

YAS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CAR LOVE LETTER 「The Days of Thunder」

【Nコード】

N7008H

【作者名】

YAS

【あらすじ】

暇をもてあました車屋のオヤジ。車は走れば良いと知っているが、実際は？（テーマ車種：トヨタカラーレビン）（TE27）

(前書き)

車と人が織り成すストーリー。車は工業製品だけれども、ただの機械ではない。

貴方も、そんな感覚を持つたことはありませんか？

そんな感覚を「CAR LOVE LETTER」と呼び、短編で綴りたいと思います。

<Theme: TOYOTA COROLLA LEVIN (TE27)>

今日は気持ちのいい日曜日だ。

風も心地よいし、日の光もやわらかだ。

こんな日はリビングで日向ぼっこして昼寝でもしたら最高なんだろうが、今日は家内と娘の買い物に付き合わされている。

俺はモータースを経営している。

繁盛しているわけでもないが、田舎だから周りに車屋も無いため、ご近所さんには懇意にしてもらっている。

田舎じゃ軽トラばかりだが、街に出てくると、それこそいろんな車を目にする。

最近ではスポーツカーだけじゃなく、ミニバンもシャコタンで爆音だ。

俺にいわせれば、あんなものは車を取りづらくして燃費を悪くしているだけだ。

車なんて走りゃいいんだよ。それが車の役目なんだ。

しかし、まったく女の買い物とはつまらん。

何件も店を回り、買うのかと思っただらまた次の店だ。

この店でもう五件目だ。

俺は店の外で一服して待つ事にした。

俺の仕事は服の批評じゃなく、荷物持ちだからな。

二本目のタバコに火をつけて、国道を快走する車の流れに目をやる
と、明らかに一台その流れを阻害している奴がいた。

ニイナナだ。

トヨタのカローラレビン、もう30年も昔の車だ。

走っているのを拝むのは、本当に久しぶりだ。

だがこのニイナナは、走っていると言うよりも、歩いているに近い
な。

何かの不調を抱えている様だ。

上手い具合に、牛歩のニイナナは、この暇を持て余した車屋のオヤ
ジの前で止まってしまった。
何ともうまい巡りあわせだ。

ニイナナからは若いニイチャンが降りてきた。
意外だった。

昔の思い出にすぎた、俺の様な中年オヤジが降りて来ると思って
いたのだが。

俺はタバコを揉み消し、ボンネットの中を覗き込むニイチャンに歩
み寄る。

普段はこんなことしないんだがな。店の中の家内と娘は、まだまだ
時間が掛りそうだからな。

「どうした？エンコか？」

俺の声に、不安そうな表情のニイチャンが応える。

「今朝から全然エンジンが吹けなくて。」

エンジンルームを眺める。

こんなにスツカラカンのエンジンルームは本当に久しぶりだ。

最近じゃ軽自動車にも、やれパワステだエアコンだ、いろんな物が突っ込まれている。

ニイナナにはそんな物は一切ない。まさに走る為の装備だけのエンジンルームだ。

エンジンを掛けようとするが、なかなか掛らず、掛ってもガバガバ言っただけに止まってしまふ。

点火不良か、ガスが濃いのか。

聞くと、先週はずいぶん調子がよかつたらしい。

先週まで寒かったのが、今日は急に暖かくなった。って事は・・・キャブだな。

ニイチャンは用意がよく、工具を一揃え載せていやがった。

俺はキャブのジェットを確認する。キャブなんて触るのは、本当何年振りだろうか。

やはり、この陽気にこの番手は明らかに濃すぎる。

俺はニイチャンの手持ちのジェットから、気温に合いそうな番手を探す。

懐かしい。

実は大昔、俺はレースに出る仲間のメカニックを務めていたことがあった。

車屋として独立した直後で、何とかして技術やノウハウを獲たかった。

そこでレースのメカニックをほぼ無償で引き受けたのだ。

金にはならなかったが、自分が組上げたエンジンがレッドゾーンまで一気に吹け上がったたり、悩みに悩んだサスのセッティングがドンピシャで、コーナーの立ち上がりでライバルのマシンを捕えたり、

そんな沢山の経験と感動を、俺はそこで獲る事が出来た。

あの時、俺にいろんな経験をさせてくれたのが、まさにこのTE2
7レビンだった。

レビンとは、どこかの国の言葉で「稲妻」と言う意味だと聞いた事がある。

その名の通り、レビンの思い出が俺の体を稲妻の様に駆け巡った。
部品のある場所も、ネジのサイズも、そのネジを弛める力の掛け方
も、全てが鮮明に呼び起こされる。

ジェットの番手を替え、プラグを磨き、点火を確認し、再度エンジ
ンに火を入れる。

掛った。完調ではないが、これなら十分峠で八チロクなんかを追い
掛け回せる位走れるだろう。

レビンのニイチャンも驚きと歓喜の声を上げる。

しかしあんたよ、何だってこんな面倒くさい車に乗ってるんだい。

今の時代なら、もっと楽で金も掛らない、速い車がごまんと在るだ
ろうによ。

俺はお節介な質問をニイチャンに投げ掛けた。

そうしたら野郎、くせえ事を言いやがった。

「好き、だからですね。女性と一緒にですよ。どんなに器量よしで聞
き分けもよくて、スタイルがいい子がいても、ワガママで聞き分け
無くて、何か個性溢れる、そんな子が気になって仕方ない様な。僕
とレビンはそんな感じなんですよ。」

車が好き、か。

俺も昔はそうだった。だから毎日車に触れられる車屋になろうと思
ったんだった。

それがいつからだろうか。車がただの商売道具になっちまったのは。まさかこんな小僧に、こんなところで再認識させられるとはな。

ニイチャンの去り際、俺は工場の住所を手渡した。

ここに持ってくれば、お前さんのレビンをもっときっちり仕上げてるぜ、と。

だけどその時や缶コーヒーじゃ済まさねえよ。

それじゃ、明日からガッツリ残業します、とさ。

ニイナナは快音を立てて国道の速い流れに合流して行った。

たまにはあんな車をいじるのも悪くねえな。

ふと店を振り返ると、まだ服を着たり脱いだりしてる娘の姿があった。

今度は310でもエンコしてくんねえかな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7008h/>

CAR LOVE LETTER 「The Days of Thunder」

2010年10月15日20時24分発行